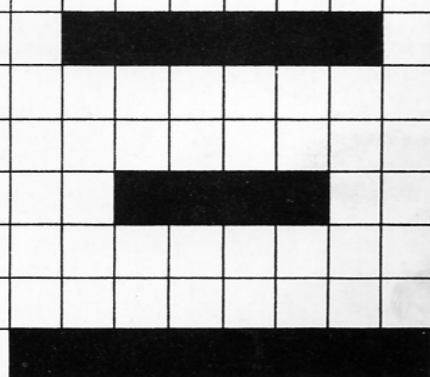
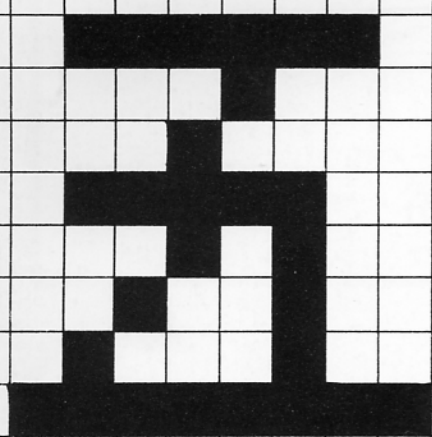


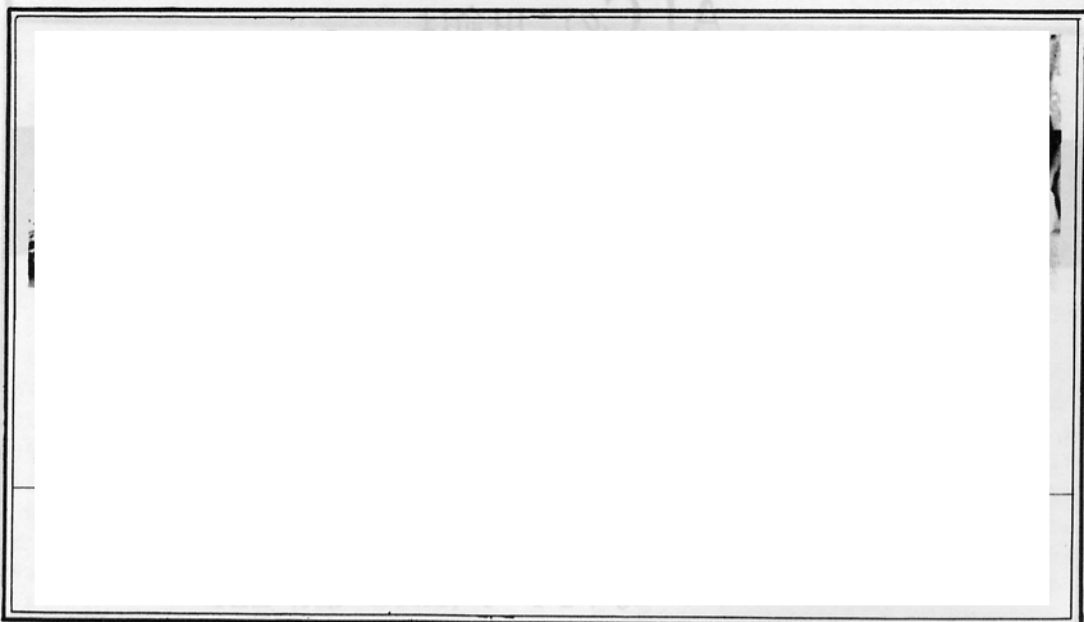
五三会

広島工業大学建築学科同窓会
第11号 昭和59年度版



目次 1

五三会の皆さんへ	佐藤重夫	1
新任のご挨拶	生田文雄	2
同窓会に対する期待	木原多佳雄	3
寄合世帯	中塚晴夫	4
卒業から10年	有馬秀宣	5
志しを振り返って	竹内誠	6
五三会学生部会会長報告	渡邊誠司	6
大学3年間で振り返って	種谷芳生	7
人生とは	三島久範	8
第9回五三会コンペ入選発表		9
第10回五三会コンペ作品募集		13



目 次 2

第 11 回総会のお知らせ	14
昭和 58 年度内定者一覧表	15
着任の御挨拶	19
広島工業大学建築学科教員及び非常勤講師名簿	20
広島工業大学キャンパス案内	21
五三会活動報告及び決算報告	22
「五三会」会則	24
役員の変遷	26
五三会 11 号スポンサー一覧表	27
編集後記	29

81 蔵田ファイリング西中国支店

蔵田ファイリング株式会社

〒730 広島市中区東千田町2-4-15 ☎082-245-1077

事務用品・文芸・金三正岡 01 種
 書籍・図書・雑誌・各種問仕切
 可動機・流動機・各種物品類
 立体自動車倉庫・倉庫周辺機器
 工場用計器・器具保管設備



五三会の皆さんへ

五三会報（日本設計協会）

文 田 圭 員 会 会 長 五 三

佐 藤 重 夫

至徳不孤という古語がある。どんなに立派な人、立派な業でも徳でも人間一人でありえることはなく、孔子様でもその時代の環境や多くの人々、父母祖先は勿論、先輩や弟子、高弟あつての孔子であるわけで、まして、われわれ皆んなは尚、尚更のことはいうまでもない。広島工業大学建築学科全卒業生の方が五三会を持って、それぞれの場に大きな努力を重ねられていることを聞き、私はほんとうに祝福と敬意を捧げたい。図らずも此の度び広島工大の教職に就くこととなり、五三会の諸君に御縁ができて、その一端に参加させていただくとは有難いことである。殊に今迄の全卒業者が三千人を遥かに凌駕していると聞き、社会への貢献度の著しいことに思い到れば真に会員諸賢の今後の御活躍を期待せずにはいられない。

私は広島工大誌プロフィール欄にも書いておいたように、昭和9年に東大を出てから、設計事務所、通信関係の多くの官庁を経て昭和25年からは広島大学に25年間、そうして呉工業高専校長を8年勤めて来たが、その間、建築其他の計画設計から教育、管理運営とたずさわっているうちに、年を忘れて過ぎてしまった。しかし、何時も若い気持で、日本には日本の家を、其処には其処の家をと考えて、われわれらしい香気と光と、汲めども尽きぬ、なんとも言えない控え隠れた温

もりをと希求してきた積りであり、年と共に人の心の奥の発想というか、心の動きともいうべきことに、愈々興味を持つようになり、今では社会の表面的動きとは逆のような、あるいは裏側深い洞察にさえ思い回らすことすらあるのかも知れない。

然しどうしたら、どのような本当の日本の建築がありえるのかという私の永遠の願いは一生を通じての私の意匠論なのかも知れない。教育や文化財のこと、また原爆ドーム保存のことなどで叙勲や賞をいただいたりして、今後はまた神の許される限り研究や教育への奉仕に努力したいと思っている。五三会々員諸君、健康に明るく、そうして永遠の神秘を侵すことなく合理非合理を全て包みこんだ（不合理はいけませんよ）文化の高揚を計りたいものです。（59.2.16）

新 任 の ご 挨 拶

「五三会」会長 生 田 文 雄（47年卒）

会員の皆様いかがお過しでしょうか。各職場の第一線で奮迅の御活躍のことと思います。

この度、諸先輩をさしおきまして「五三会」の会長という大役の任をおおせつかり誠に光栄に思うと同時に大きな責任を感じております。今後、役員共々「五三会」の発展のため一生懸命に努力いたす所存ですので会員の皆様方より一層のご協力をお願いいたします。

さて、「五三会」も発会以来、今年で11年目を迎え、会員数も2,500人を超えるに至り、広島市近辺の建築界においては、ほとんどの会社、団体に会員が所属するというまでになっているのではないのでしょうか。今後会員が増すにつれ、この状況はますます拡張され充実していくことと思います。このことは、「五三会」にとっては大きな力であり、また会員にとっては大きな財産となるものと確信しております。しかし、同窓会としては歴史も浅く、現在においては一期生をはじめとして会員の方々はそれぞれの職場社会の中では、第一線において活躍しなければならないポストに居られる方々がほとんどであり、日々、時間に追われてなかなか同窓会まで目を向ける余裕がないというのが実情ではないかと思えます。このような時期での同窓会の運営においては、事業活動を継続させることを第一にして会の歴史を積み重ねることが一番重要なことだと思います。

このような状況の中で「五三会」の発展のために会員の皆様方に是非ともお願いしたいと思うことは、まず第一に、会員の皆様一人一人が各職場で常に広島工業大学建築学科の卒業生であるという誇りと自覚を持って行動し、その職場社会の第一人者として自他共に認められる活躍をしていただきたいということです。

そして、二つ目として、自分の身の廻りでできるだけ多くの会員を見付け出していただき、情報を交換するなどより広く会員同志の親睦をはかっていただきたいと思います。そして最後に、時間の許す限り同窓会の活動に参加していただいたり情報を知らせていただくようお願いします。これらの積み重ねの総態として「五三会」の発展があるものと思います。

第一声としては消極的なことばかり申し上げましたが、現在の「五三会」の活動は、他の同窓会と比較しても決して劣らない内容だと思っております。会報誌の発行、総会の開催はもとよりコンペの実施、在学生への援助など本会の発足以来ずっと続けて行っており、ますます充実した内容になってきております。

今年度は、特に、「五三会」を躍進させるために本会の活動の原動力となっている役員会に、より多くの

会員の参加を呼びかけ、役員会の活性化と充実を図りたいと考えております。役員会には気軽に参加して情報を提供していただきたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

最後に、会員の皆様方のますますの発展を祈念いたしまして会長新任のご挨拶とさせていただきます。



同窓会に対する期待

近畿支部（日建設計勤務）

木 原 多 佳 雄

昨年、初夏の頃、大学院生の後輩諸氏から同窓会の近畿支部結成の誘いがあり、母校に対するなつかしさと先輩・後輩との出会いを楽しみに準備に参加した。在阪の同窓生の確認をすれば、約二百名を数えることが出来、在学中から活躍の名声が高かった先輩や、大学院、各社で活躍されている後輩が多数おられること、同窓生諸氏が大いにがんばっておられることが確認出来、心強く感じられた。さらに、母校の様子、教授陣の御活躍の様子が伺え、学生時代の友人から隔って、一人大阪の地で、孤独感を持っていた筆者に強い味方を得た感があった。近畿支部準備会総会には大学側から林教授・牛島助教授を迎えて、約五十名の諸氏が集まった。諸氏は非常に再会を喜び合って、新たな活躍を知り、お互いの協力を約束し合った。卒業後、諸氏が時代の要請に応じて多様な分野で努力を続けられておられることが判り、諸氏の力を集めれば、広工大の同窓会と言えどもなかなか強い組織力になるものだなと感じ、改めて、うれしきを得たものである。

母校建築学科は一般に言われる新設校であり、まだまだ、社会に十分受け入れられ、要請される学府として十分な確立を見ないのである。また、現在、建築ブームが遠ざかりエレクトロニクス・バイオテクノロジー時代を迎え、先端産業への志向が強まり、母校建築学科が社会に注目される要素は少しずつ減少される危機に見舞われている。

母校建築学科が着実に社会に要請される学府として確立するためには、学科がある程度の経歴を持つこと、また、教授陣の研究に大いなる成果を期待したいこと等、学科の充実に期待するものがあるものの、我々、社会の一員を構成している卒業生が社会での評価を得ることが必要であることは言うまでもないことである。会社での卒業生諸氏の活躍が後輩に道を大きく開けることが出来るか、閉すことになるかは諸氏の経験されるところであろう。

そのためには卒業生として、母校建築学科の危機を救うために、諸氏の分野で着実な進歩と評価を得たいものである。

母校建築学科の同窓生は十四年の経歴で約二千人を超える数にのぼるものと思われる。この同窓生数は国公立大学建築学科に換算すれば、約六十年間に及ぶ輩出数に相当する人数であり、同窓生の勢力としてはこれらの大学の勢力に匹敵するものである。この二千人が協調し合って、諸氏の活躍を助成することが出来れば、他校の栄光に負けることなく、徐々に良い評価を得ることとなる。

そのためには、諸氏が少なくとも結束することが必

要ではないだろうか、しかし、広島に在住する諸氏に同窓会としての結束が見られ、同窓会としての活動が活発であるものの、広島以外の地域に居住される諸氏は、大阪で同窓会としてのまとまりが芽ばえ始めたとしても、まだバラバラで、二千人がまとまって、協調体制を望むネットワークが組めるのは、かなり時間を必要するようである。

人の話しに依れば、在阪の公立建築学科の主任教授が就職指導に際して、卒業生が少人数であるため、就職地が全国各地に分散するよりも、将来、卒業生が結束することが容易なように、各人援助し合うことが可能であるように、なるべく大阪に固まって欲しいのことを言われたかに聞く。この教授の言葉にあるように、如何に卒業生同志の結束が各人卒業生の成果を上げるため必要であるかが伺える。

少なくとも同窓会としては、同窓諸氏がどこで、どのような分野で、どのような活躍をされているのかを把握しておくことが、最小限必要なことであり、また、我々同窓生として、現在、行っていることについての情報を諸氏に知らせる機能を円滑にすることも今後望まれることであろう。

我々としては、二千人という人材を得ているということは大変な財産であるはずである。この財産を有効に、利用することにより諸氏の能力を更に向上させることが出来るものであろう。

お互い助け合い、激まし合う組織を確立しようではないか。諸氏の能力の向上を見れば、即ち、社会での評価に繋がりが、母校の確立に参与することになる。

同窓会には旧交を温め合う場だけでなく、多様な機能展開が可能な同窓会に拡げていきたいものである。また、同窓会を有意義な会とするための話し合いを繰り広げたいものである。



寄る合世帯

(高松市新聞) 読文部

高松市新聞

「五三会」会報

中塚晴夫(44年卒)

19年前と書くと、ずいぶん昔のような感じがしますが、同じ時を表現するのでも、昭和40年2月5日、雪降り積る中を三宅坂討入(受験日のこと)と書くと、懐しさが先行してふた昔の月日は飛び越してしまって学生時代のあれこれが想い出されてくるようです。

今のように、しっかりとしたカリキュラムに依る学習ではなくて、試行錯誤の繰り返しの中での授業風景は、今想い起こすと懐しいことが多いのですが、先生方は大層御苦労されたようでした。最初は何んでもそんなものですが、その割りに当人達は、吾気者が多かったようです。私の下宿先から大学への通学路は、田んぼの畔道であったり、農家の庭から庭へとお邪魔してゆくことだったので、"呑みり屋"さんが誕生しても不思議ではないようです。

4年間の学生生活においても、知識として社会に出るから直接役に立ったことも多くあったのですが、それ以上に大事?なものを教えていただいた感が強いのです。それは、無鉄砲に近い"自立心"ではないかと思います。同期の人達で、経緯と時期は各人さまざまでしょうが、現在、独立している方が多いのは、偶然ではないような気がします。又その反面、過去10回?におよぶ総会・懇親会への参加もS44年卒は年度別比較では、最多数ではないかと思ひます。我々の年度以外にS47年卒の方達も多いように見受けますが、皆さんユニークな方達が多く、相通じるものを感じます。"自立心"と"お祭り好き"とは、底流に同質なものを持ち合わせているのかも知れません。"お祭り"もその共通目的の内容によっては、単に騒ぐだけに終らず、一つの方向へむけて発展してゆくことがあります。その中から創作活動へと移行してゆけば素晴らしい事でしょう。

一昨年のある五三会幹事会の帰りに、喫茶店で雑談している中に話が出て、それが膨らんで声をかけてみて一つの集まりが出来ました。"NASA都市連合"と命名しましたが、それまでに半年間かかりました。

自分達の意図が相手に正確に伝わり、親しみを覚えてもらって、出来れば子供達も覚えてくれるような名前を搜しましたが、仲々考え出す事が出来ませんでした。

皆んなして、ずい分と頭の回転が悪くなったと笑いあったものです。設計畑を14年間歩いてきた為に、それに対する回路のみが使用されてきた結果、学生時の柔軟性が欠如してしまったのかも知れません。悪戦苦闘の末、やっとの想いで通りついたのが"NASA"でした。あまりにも世界的な名前であることに又皆んなして、何もしないうちから世界の注目を浴びてしまっ

たと大笑いです。日本人としての悲哀をちょっぴり感じてます。

現在、誕生してまだ1才に満たない乳児ですが、春頃には季節も良くなり、外に出てヨチヨチ歩きが出来るのではと期待しています。

紹介

名称: NASA都市連合

主旨: そこに住む人達が、安全な状態でより快適環境へ向けて接近してゆくの協力・参加してゆくこと。

N: Native - 土着の人、その土地の人

A: Approach - 接近

S: Security - 安全、無事、保護

A: Amenity - 生活を快適にするもの

構成事務所: 榑青木設計事務所、KAZI建築設計工房、コニシ建築設計事務所、造設計集団AA設計室、高岡昌弘建築総合研究所、水野良信建築設計事務所 以上6社

構成人員: S44卒 - 青木能典、阿部宏嗣、小西芳雄
高岡昌弘、中塚晴夫、三上明夫、水野良信

S45卒 - 村上憲弘 以上8名

事務局住所: 〒733 広島市西区中広町二丁目20番
14号 古田ビル2F

電話: (082) 292-0456 (代表)

何分ともに未熟児です。色々な事を勉強し、知っていきたく思っております。宜しくお願い致します。



卒業から10年

有馬環境建築研究所

有馬 秀 宣（48年卒）

同窓生の皆さんお元気ですか。

私が広工大を卒業して、もう10年になります。学生生活で記憶に残るのは、在学中あまり勉学もせずただクラブ活動に熱中していたことくらいです。そんな私も、やっと8年生の後半頃から「建築学科」の学生なんだと意識するようになりました。そしてそれ以来、卒業したらまず広島を離れようと思うようになりました。

しかし卒業後、1年間は地井研究室の研究生として大学に残りました。その頃、地井先生は漁村集落の調査研究をしておられ、その一端に触れたことは、建築を恣意的に造ることよりも、その土地固有のシステムから都市や建築の在り方を発見することが大切だということを知る良い機会であったように思えます。

そういう訳で、翌年上京した私は東京芸大の大学院建築科に進もうと決め、広工大の先輩の事務所でお世話になりながら受験の準備をしました。その間に建築士の資格も取り、大学院に入った時にはもうすでに26才になっていました。

一学年につき学生が15人、院生が7人という芸大の建築科には、プロ並みの模型を作るやつ、プレゼンテーションのうまいやつ、すごいドローイングをするやつなど、とにかく器用な人間ばかりで驚かされたものです。少人数の故に出来る彼等との交わりや、また絵

画や音楽を専攻する人達とも親しくなれたことは、私にとって有意義なものでした。

卒業後は、日本設計事務所に2年間在籍しました。350人の所員を拘える大事務所であり、超高層ビルから住宅の設計まで手掛ける建築の資料集成的ような事務所です。ここには意匠設計者が約100人ほどおり、まさに広工大の製図教室がそのまま設計事務所になったようなものです。大事務所にいて一番感じたのは、所員が何百人いようと、設計行為というのは極めて個人的な作業であるということです。この間非常に短期間ではありましたが、テレビ局のスタジオや保養所、都市再開発計画、公園広場計画など多種多様な楽しい仕事に参加出来たことは幸いでした。

8年前広島に帰って独立し、事務所を開設しました。これぞ私の作品なんだ、という決定作も未だなく、今後に期待をかけている次第です。

また、57年度から広工大の非常勤講師の話があり、建築設計と計画演習の授業を見ております。最近の学生はと言うほど私も年は取っていませんが、確かに10年前と比べて型破り人間は少なくなってきているように思います。今、学生達と接する中で、果たして10年前の自分は、どのようなタイプの学生だったのだろうかといつも自問しています。

（卒業生） 宣 表 竹 内 誠

渡 邊 誠 司

「建築学科」、なんと言う素晴らしい言葉の響きであろう。私のここの志望動機は、いとも単純で浅いものだった。そして、その淡いイメージは、入学後たちまちのうちに打ち消されてしまい、残ったものは虚無感でしかなかった。

3年の設計製図の授業で、たまたま佐藤洋先生に担当して頂き、その中で、「まあこれなら」と感じたのは、はたして私だけでしょうか。これまでの諸先輩方、そして後輩達もそうであると思うし、佐藤先生の考え方（生き方）は、今後の私にとって大きく影響するものであった。人間が人間らしく生きる空間の創造、表現、分析。その際に自分の全生霊を傾け打ち込む姿勢、多様かつ柔軟な視野の中で“人”であることを認めつつ、常にそれを超越しようとする生き方は、これからの私の基盤になるのではないだろうか。

佐藤洋先生の下での卒研は、これまでの考え方を基礎としながら電算処理を導入し、人の感性と付属的なデータに頼っていた空間の創造を数値化することで、設計に磨きをかけ様とする研究をおこなっている。現段階では昨年までと異なり、集合住宅をテーマにした調査・分析で、多種多様な障害がある上に、佐藤先生御自身、東京工大へ内地留学しておられたので、普通の研究室と異なり指導も制約され、いつも先生に見ていただくわけにはいかなかったが、自分達の構想で予算は自由に使わせていただき、十分にやりたい事が出来ました。しかし、佐藤洋先生御自身国内留学期間中であるにもかかわらずその大半を広島で過ごしていただき私達の指導をしていただいたことは感謝にたえません。此のゼミあるいは卒研を通して学んだことは、私自身大きな自信につながったと確信します。

また、これより社会へ羽ばたく上で、大きな財産となり、少しでも貢献できれば幸いと思います。

五三学生会部会は、発足後、2年目を迎えました。本年度の活動内容としては、卒業生の送別に始まり、新入生オリエンテーションセミナー、体育祭、学内レガッタ、前期ソフトボール大会、工大祭、後期ソフトボール大会、三宅駅伝への建築学科の学生の積極的参加をすすめて参りました。これらの行事には、発足後2年目ということで、不手際もありましたが、うまく活動を行うことができたと思っています。しかし、昨年の反省に基づき、生きた教材による学習ということで現場見学等の計画もありましたが、実際には行なえなかったのが残念です。

本年度の反省より来年度の役員の皆さんに次の事を課題とし、より一層五三学生会部会の発展へと励んでほしいと思います。

1. 五三学生会部会会員への、会員としての自覚をうながす。
2. 五三学生会部会会員相互の連帯
3. 五三学生会部会会員が積極的に参加できる行事
次期役員の方々だけでなく、会員全員の力で、五三学生会部会を盛りあげ、大学生活をより充実したものにしていただきたいと思います。

大学3年間で振り返って…

人生とは……

種 谷 芳 生

三 島 久 範

大学3年間でアッという間に過ぎようとしています
が、常に考えさせられていることが工大建築学科にお
ける自分の場所ということであります。

高校までというのは、一つの教室・一つの机が学校
における自分の場所であり、又、思い出の場所でもあ
ったように、そこでは授業を離れたところにおいても、
先生方や学生同志のコミュニケーションがもてたよう
に思われます。ところが、大学では各講義で教室を移
り講義が終わると、クラブ活動をしているものは部室
へ、そしてそれ以外の学生は何をするでもなく家へ帰
っていくのが少なくないのではと思います。

ある意味で、高校までは先生方（学校側）があらゆる
環境を学生に与えて下さったのに対して、大学にお
いては、学生一人一人が自分自身で環境（自分の場所）
をつくりあげていくものかもしれませんが、高校までの
のあり方の違いに、とまどいを感じて学生生活を過ご
しているような気がします。

そういう中で、五三学生会部のあり方が、とても
興味深く感じられました。又、昨年の5月から活動をし
てきました学生会部の活動の一つである卒業設計作
品集を通して大学における自分の場所そして存在を感
じることが出来たように思います。

今後は、多くの学生になるべく早く学生会部の活動
を理解してもらい参加していただきたいものです。そ
うすることによって工大建築学科の中に学生一人一人
の場所が確立されていくものと考えます。

学生生活も残すとて後1年、という立場を迎えた私
は、今なんとなく、自分の生き様に節目をつける時が
来たような感じがしています。

学生生活の終りに人生を決める訳ではないにしても、
せめて、右か左かぐらいは選ばなければならない。そ
んな時期が、今、私を迎え入れようとしているよう
です。

20才そこそこの私に、もし誰かが“人生とは何か”、
“生き様とは何か”と質問して来たとしても、それは
“答えを待つ方がおかしいよ”と言いたい私ですが、
生意気にも一つ言わせてもらいますと、

男が絵を描く……

何を描くか……

志をもって描く

己を信じることに支えられながら

生き様というキャンパスに描く

そして、いつの日か振り返り

若き日のキャンパスを取り出した時

そこには苦笑と

小さくなった男の背中がある

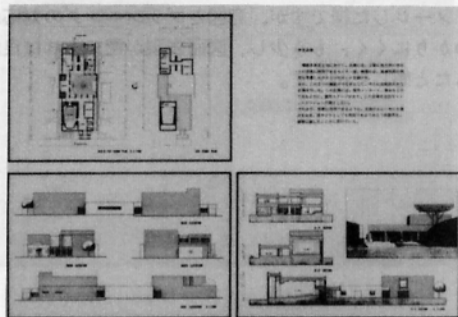
お笑いになるかもしれませんが、人生とはこんなも
のではないかな、又、これがなんとなく理想かなと、
そんな気がしている今日この頃です。

そして、今、そろそろ自分の生き様にも、一本貫く
ポリシーぐらいは持ちたいと思っています。それが、
きっと、右か左かを選ぶ“鍵”となり、これからの、
私の生きる術における支えとなり得ると信じているか
らです。

THE 9TH ITSUMIKAI COMPETITION



森本 富雄



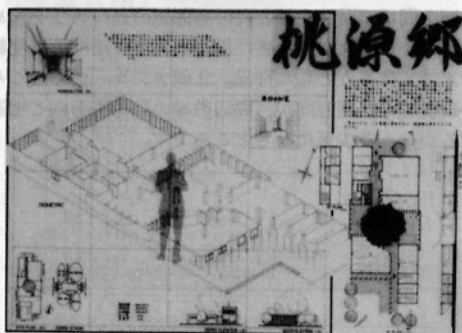
一等：該当作品なし

二等：大塚建司（広島大学）

大学生間の交流の場としてのセミナー室と、地域住民利用も考慮した大小のホール、それらを結ぶ自由なコミュニケーションの場としての屋外広場という構成、出入口正面にレストコーナーも設置、という作品。東・西立面図にみられるように、セミナー室と大小ホールを結ぶ空間形態の理解に、未消化の部分があることは残念でした。

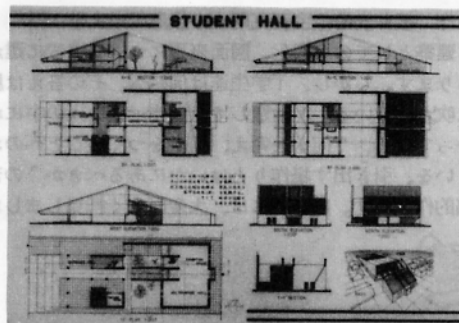
三等：浜井寿光、玉置卓男、三島久範、井伏克則、
宮本日佐美（広島工業大学）

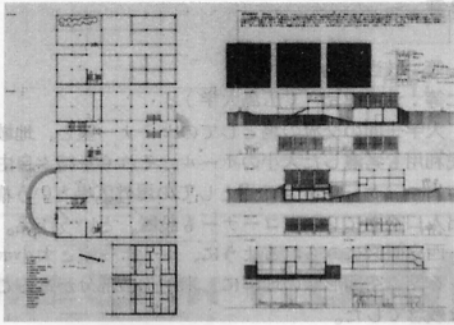
菩提樹を中心に展開し、奥行きを感じさせる空間形態への模索を、桃源郷発見への期待をもって作られた作品。今回の作品全体の中では、学生会館として、はっきりと、そして何かが学生達の為にあると感じさせる作品の代表的なものと言えます。



三等：門田猛則（福山大学）

学生の自立心の形成の場づくりをテーマとした作品です。“学生達みんなの大きな家”という、考え方がみられ、私も一つの案として予想していたものです。屋根部分に一ヶ所、形態的に練れていないところがあった点、残念です。



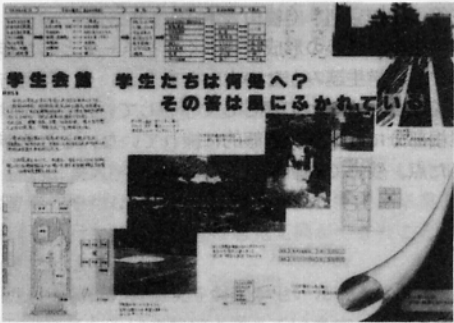
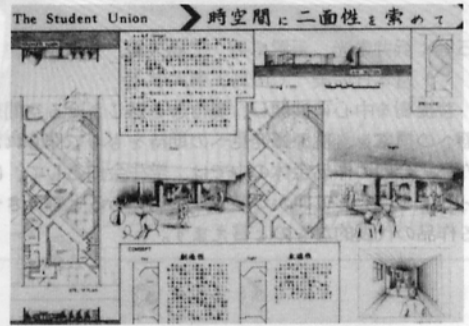


三等：尾崎安弘（福山大学）

色々な人が、自由に使いこなすことのできる会館をイメージした様ですが、意図とプランニングの対応がわかりにくく、もう少し、図面表現が密であれば良かったと感じた案です。

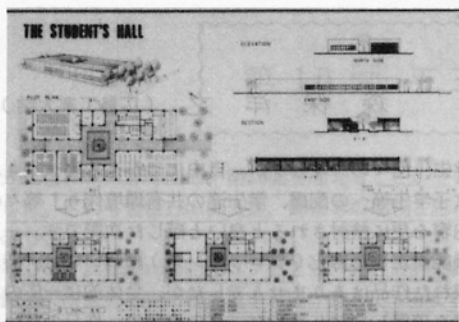
三等：松尾兆郎、杉原 豊（広島工業大学）

時空間に二面性（昼と夜の雰囲気の違い等）を求めることをテーマにし、また周辺と異質な空間を45度軸をふって作ろうとした作品。北側アプローチのところの45度線の処理方向が、周辺敷地の動線主方向と相違する点は、多少気になるところです。



佳作：板井安徳、宝利克則（広島工業大学）

建築としての形態化、図面表現について大変に難があります。しかし、「学生達は何処へ、その答えは風に吹かれている。」と題して、学生一人一人の中にねむっている、“何かを考え、何かをつくることへのおもいを、引き出す場作りとはいかにあるべきか”の苦悩的作品です。内容的には、大変面白く拝見しました。

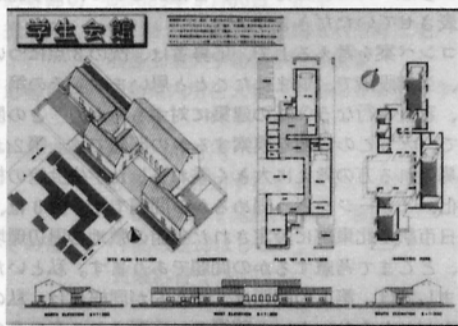


佳作：二宮正伸（広島大学）

一つの建築としての形態の模索をした作品と思いますが、“学生会館”としての理解が多少少ない様で、この点残念な作品となっています。

佳作：片内良平（広島工業大学）

敷地が狭いので、季節等によりプランを変化可能とする案。学生の自由な場づくりの一つの考えと思いますが、変化して使えることと、学生の生き生きとした場としての意味は、多少異なる様に思います。両者の解決のし方を模索すると更に面白くなったと思います。



《 総 評 》

森 保 洋 之 （広島工業大学）

本コンペも、第9回をむかえましたが、今回も、前回同様オープン・コンペ、個人審査にて行なうこととなり、私が審査を担当することになりました。今回の応募作品数は、前回は上回り、今迄で最高の14点（内訳：広大3点、福山大5点、広工大6点）であり、誠に盛況でありました。このコンペを企画・運営された五三会コンペ委員会の方々、そして、この企画に積極的に参加いただいた方々に、審査員として、まず謝意を表させていただきます。

コンペ案を考える上で、応募者は、次の3点について、当初段階で、悩まれたことと思います。その第1は、審査を行なう「私の建築に対する考え方」との関係で、どうこの課題を模索するかの問題です。第2は、応募される方の考えに大きく委ねました学生会館の機能化、イメージをどう固めるかの問題です。第3は、五日市駅の北東部に設定された会館の敷地の周辺環境を、どこまで考慮するかの問題であります。私といたしましては、第1の問題は、皆さんが同様には、私の考えがわからないという前提で、応募される方自身の考えにより進めただけであれば良ろしいと考え、また第2の問題は、今回のテーマそのものですので、この点に注目して審査せざるを得ないと考えまして、そして更に第3の問題は、遠方の方は、現地に来られないかも知れませんが、この点厳しく審査のウエイトは置けないと考えた次第です。

この様な考えを主軸に、他のチェック事項を含め、結局次の9つを本コンペの審査上のエレメントといたしました。1) 視点、意図の新しさ。2) 機能、イメージの設定内容。3) ディメンジョン・プランニング。4) 動線計画、室関係チェック。5) 形態化の方法とその表現。6) 敷地条件への適合（細長い敷地、周辺環境）。7) プロセス・プランニング、利用変化への対応。8) 図面表現技術（図面密度）。9) 以上の全体の調整（全体的まとまり）であります。これら9つを大きくまとめますと、結局、学生達の自由な存在の場としての会館のコンセプトとその新しさ、形態化の意味、そして図面表現の手堅さ等を審査上のフィルターにした訳です。

各作品の講評については、入選発表会（11月3日）の席上にて、作品毎にいたしましたので、ここでは省略させていただきますが、率直な感想として、全体的に内容の深さの少ない作品が多く、これはというものは、1～2点であり、残念ながらよいものは少ないという結果でした。恐らく相当短時間にまとめられたものと想像いたします。例えば、会館の雰囲気・機能化の模索については、「だれでも気軽におれて、落ち着き、ほっとする空間。」「何かの原点として、これから何かをはじめられる、そんな活性化の方向をも雰囲気的にも、機能的にももった空間。」「各種の大学の

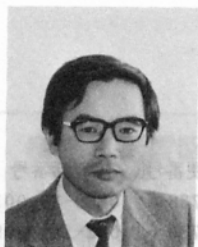
学生、色々のグループが、自由につかえる場づくり、女子学生等への配慮、学生達の共有環境作り」等々の内容を更に検討されると良いと感じた次第です。一方機能設定と形態化（ブロックング）については、特に練れた作品はありませんでしたが、全体的に一応の水準を確保しておりました。その意味で、作品の良いところの比較（プラス・チェック）というよりは、ネガティブなところの少なさ（マイナス・チェック）という点に審査の重点をおかざるを得なかったのが実情です。

その結果、今回は、一等は該当作品無し。二等は1点（大塚建司君、（広大））。三等は4点（浜井寿光君他4名（広工大）、門田猛則君（福山大）、尾崎安弘君（福山大）、松尾太郎君他1名（広工大））。佳作は3点（板井安徳君他1名（広工大）、片内良平君（広工大）、二宮正伸君（広大））の計8点を入選といたしました。規定では全5点の様ですが、一等の該当作品がありませんでしたので、励みとして多少入選数を増やした面もあります。各入選作品の講評内容につきましては、別のページを御覧下さい。

今回のコンペの審査をさせていただき、オープン・コンペは、作品応募の機会という意味と共に、応募作品の講評・発表会時における「他大学の方々との交流の場としての働き」も多大であると感じました。これからも五三会コンペが、継続的に発展いたしますことを願ひ、皆様の今後の参加を更に期待いたします次第です。

（昭和58年11月3日）





着任の御挨拶

広島工業大学建築学科助教授

篠原 道正

五三会の皆様元気で御活躍のこととお喜び申し上げます。さて、私は昭和57年10月1日に広島工業大学建築学科の教員として参りました篠原ですが、簡単な略歴と当建築学科の設備コースの現況を紹介し、御挨拶に変えさせていただきたいと思います。

私が北海道大学理学部物理学科を卒業したのは昭和40年ですから、広島工業大学に建築学科が開設された年になります。1年間研究生の後41年3月から東京工業大学工業材料研究所の助手となりました。当時は熱伝導に興味があった訳ですが所属研究室が建築材料の熱伝導を研究対象としていた関係から次第に建築に興味を持つようになりました。昭和55年5月から恩師の後を追って新設間もない宇都宮大学工学部建築工学科の助手となり、昭和57年7月に東京工業大学から工学博士の学位をいただき、同10月に広島工業大学へ着任した次第です。

研究分野は建築環境工学の中で人間の温冷感と熱収支に基づく温熱環境の設計指針の確立を中心テーマとしております。

担当授業科目としましては、環境工学のうちの熱関係および設備工学のうちの空調設備関係を分担しておりますが、環境設備における熱関係の内容を担当していると言ってもよいかと思います。

設備コースは現在3名の教員スタッフで運営されております。私以外の先生方については詳しく紹介される機会もあると思いますので簡単に紹介いたしますと、

天満祥弥助教授：五三会の皆様はすでによく御存知の先生です。研究面では古建築の熱環境を構法がらみで解明しようと言うことで日夜努力を重ねておられます。これにつきましてはすでに、新聞、テレビ、ラジ

オ等を通じて紹介されておりますので、広島県内で活躍されておられる方々は御存知かと思います。授業は建築環境工学のうちの日射・日照・光環境を分担されています。

浅野良晴講師：会誌ではまだ紹介されていないのですが、昭和54年に東京工業大学で工学博士の学位を取得され、さらに昭和56年には空気調和衛生学会の学会賞第1部（論文賞）を受賞されている少壮気鋭の研究者であるとともに教育面でも手腕を発揮しておられます。広島工業大学へは昭和55年4月から着任されました。研究は給排水衛生設備を中心に幅広く活躍しておられ、授業は設備概論と設備工学のうちの給排水衛生設備を分担しておられます。

設備コースとして是非紹介しなければならないことの1つは実験設備です。太陽熱冷暖房給湯システムが大学、林主任教授はじめ諸先生方の御尽力によって完成し、すでに3年生の設備実験ならびに卒業研究用に供され利用されておりますが、さらに2つの人工気象室と簡易無響室が今年度完成し、設備実験ならびに卒業研究用設備として利用が開始されました。

以上着任の挨拶を兼ねまして新設の設備コースを簡単に御紹介いたしました。今後はこれら実験設備に対する測定機器類の充実をし、教育効果の向上を計るよう努力して参りたいと思います。

五 三 会 活 動 報 告

幹 事 長 背 尾 宜 徳

広島工業大学建築学科同窓会、五三会も現在では会員数8,000名を越える時代となりました。

広島地区においては、今や建設業界のあらゆる分野にゆきわたり、数の上では相当な割合を占める様になりました。又、数の上のみではなくその技術面及び質的にもそれぞれの業界での評価は高まってきており、社会的にも重要なポストへ位置する人も出初めました。卒業生一同これを基盤として今後尚一層活躍していただきたい。

又、同窓生が増すにつれ、各幹事の仕事量も増えており、会員各位の深い御理解をお願いしたいと思います。

さて、本年の活動としては次の様な行事を行なっております。

1. 総 会

本年度の総会は、昭和58年5月21日もみじ会館にて行ないました。

2. 会 報

毎年、1回発行し、各同窓生の情報交換の場とし様々な企画を行なっております。

3. 在学生を対象とした卒業研究の優秀賞

建築学科の学生であることの自覚を持つこと及び建築学科の同窓会である五三会をより深く理解していただくという意図で、本年も優秀な卒業研究に対して、五三会賞を送りました。

4. 設計コンペ

本年度から、五三会コンペとして卒業生、在学生及び広島県内の大学、高専の建築学科学生を対象として実施しました。

5. そ の 他

同窓会名簿の作成、各職場での交流 etc も、当会を利用して行なっております。

会員各位の深い理解と参加を期待しております。



〔昭和58年度 決算報告〕

◆ 収入の部

繰越金	843,589
新会員会費	375,000
会員会費	198,000
広告料	930,000
雑収入	3,646
計	2,350,185

◆ 支出の部

印刷費(会報・封筒)	298,000
郵送費	313,920
会議費	180,500
活動費	82,500
総会負担金	102,440
コンペ費	219,910
在学生援助費	60,000
バイト費	30,000
消耗品及び雑費	520
繰越金	1,062,395
計	2,350,185

〔昭和59年度 予算案〕

収 入 の 部		支 出 の 部	
繰越金	1,062,395	印刷費(会報・名簿・封筒)	1,100,000
新会員会費	1,000,000	郵送費	500,000
会員会費	315,000	会議費	180,000
広告料	1,650,000	活動費	50,000
雑収入	5	総会負担金	100,000
		コンペ費	240,000
		在学生援助費	80,000
		学術文化分科会費	60,000
		バイト費	40,000
		消耗品及び雑費	30,000
		予備費	1,647,400
計	4,027,400	計	4,027,400

広島工業大学建築学科同窓会

「五三会」会則

第一章 総 則

- 第 1 条 本会は広島工業大学建築学科同窓会「五三会」と称する。
- 第 2 条 本会は本部を広島工業大学建築学科内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置く事を得る。
- 第 3 条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校建築学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第 4 条 本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行なう。

1 集 会

- 1 会員相互の連絡並びに共助に関すること
- 1 会誌及び会員名簿の発刊
- 1 母校建築学科に対する精神的、物質的援助
- 1 その他本会の目的達成に必要な事

第二章 会 員

- 第 5 条 本会は下記の者を以って組織する。

- 1 会 員 広島工業大学建築学科卒業生
- 1 学生会員 広島工業大学建築学科在学生
- 1 客 員 母校職員及び旧職員
- 1 名誉会員 本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められた者。

第三章 役 員

- 第 6 条 本会は下記の役員を置く。

- | | | | |
|--------|-----------|--------|-----|
| 1 名誉会長 | 置くことができる | | |
| 1 会 長 | 1 名 | 1 副会長 | 2 名 |
| 1 会 計 | 2 名 | 1 会計監査 | 2 名 |
| 1 幹事長 | 1 名 | 1 幹 事 | 若干名 |
| 1 評議員 | 各卒業年度に若干名 | 1 書 記 | 2 名 |

- 第 7 条 本会の役員は次の方法で決める。

- 1 名誉会長は総会をもって推す
- 1 会長・副会長・幹事・会計・会計監査・評議員は総会で正会員の中から選ぶ
- 1 幹事長は幹事の中から互選する
- 1 幹事は総会の議決により正会員の中から委嘱する

第 8 条 各役員はそれぞれ次の任務をもつ。

- 1 会 長 本会を代表し会務を統べる
- 1 副 会 長 会長を助け支障がある時は代理する
- 1 会 計 会計事務に当る
- 1 会計監査 会計を監査する
- 1 幹 事 長 会務を主掌する
- 1 幹 事 会務を処する
- 1 評 議 員 会務を評議する

第 9 条 役員の任期は一カ年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充しこれによって就任した者の任期は前任者の残りの期間とする。

第四章 顧問

第 10 条 この会に顧問若干名をおく。

- 1 顧問は総会の議決により適任者を委嘱する
- 1 顧問は会の諮問に応じる

第五章 会議

第 11 条 会議を分けて定期総会、臨時総会及び役員会とする。

第 12 条 総会は最高の議決機関で毎年 1 回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時会長が招集する。

第 13 条 総会は次のことを決める。

- 1 会則の変更と改正
- 1 決算及び予算
- 1 役員の改選
- 1 その他重要な事

第 14 条 役員会は会長が必要と認めた時招集し、次のことを決める。

- 1 総会に附議する原案
- 1 この会の運営に関する諸事項
- 1 その他緊急事項の協議

第 15 条 会議の議決は会員の参加者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

第六章 会計

第 16 条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。

- 1 会員は入会金と終身会費として、入会時 10,000 円を納入しなければならない。
- 1 学生会員は在学期間の会費として 2,000 円を納入しなければならない。

第 17 条 この会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

付 則

終身会費については、昭和 58 年度から施行する。

編 集 後 記

「五三会」会報紙第11号の発行にあたりまして、原稿をお寄せ下さいました方々にお礼を申し上げます。

また今回も多数のスポンサーの協力をいただき、どうもありがとうございました。

年々会員数が増え、会報誌の発行部数も多くなってくるに従って内容も充実して来ましたが、今以上の内容のあるものとするために、今後の会員の皆様のご協力をお願いいたします。

最後に社会で御活躍の皆様、今年新たに社会で活躍される皆様の御健闘を心からお祈りします。

「五三会」 第11号 編集委員

水 田 利 寛 (53)

前 田 伸 彦 (51)

広島工業大学建築学科同窓会誌

「五三会」第11号

編集責任者 水 田 利 寛

発行責任者 生 田 文 雄

印刷所 広島電話印刷

発行 昭和59年8月1日

